



講演 I

「神戸製鋼グループにおける CAE の研究開発、設計での活用」

三宅 俊也

株式会社神戸製鋼所 常務執行役員 技術開発本部長

【自己紹介】

- 1984年3月 京都大学大学院工学研究科修士課程機械工学専攻修了
- 1984年4月 株式会社 神戸製鋼所 入社
- 2006年4月 同社 技術開発本部機械研究所長
- 2011年4月 同社 理事 技術開発本部機械研究所長
- 2013年4月 同社 執行役員 技術開発本部副本部長
人事労政部 QC 支援の担当、新鉄源事業の支援、ものづくり推進部長
- 2014年4月 同社 執行役員 技術開発本部副本部長 新鉄源事業の支援
- 2015年4月 同社 執行役員 技術開発本部本部長 新鉄源事業の支援

【講演概要】

神戸製鋼グループでは素材系から機械系まで多岐に渡る「ものづくり」を行っている。素材系事業ユニットでは効率的な操業や競争力のある品質の維持が、機械系事業ユニットでは魅力ある製品創出や製品開発の高度化がこれまで以上に求められ、各工程間での高度な「すり合わせ」が必要不可欠となっている。

ここでは、神戸製鋼グループの「ものづくり」において、製品開発や操業支援を支えるCAEの活用事例として「建設機械の省エネ」、「溶鋼温度ガイダンス」を紹介する。個々の部品や要素の物理現象を解明する3D-CAEとそれらがモデル化され組合わされるシステム特性性能としての1D-CAEを研究開発・設計に活用することで開発の効率化や高度な「すり合わせ」に対応しており、CAEが神戸製鋼グループの「ものづくり」に必要な不可欠なツールとなっていることを説明する。